

## 子育てひとくちメモ7, 「勇気づけの大前提」

### ○子どもを尊敬する

尊敬するというのは、子どもを「子ども扱い」しないということ、対等の人間として子どもと向かい合うということです。「対等」「平等」というのは、「同等（おんなじ）」ということではありません。子どもと大人とは違います。体力も経験も知識の量も違う。違うけれども、人間としての価値は平等です。大人が優れていて子どもが劣っているものではありません。子どもにはたくさんの援助が必要ですが、だからといって人間としての価値が劣っているわけではありません。大人と子どもとがバリアフリーに、対等に向き合えること。このような態度で子どもに向き合うことを「尊敬する」と言います。

### ○子どもを信頼する

今子どもが持っている能力と、これから育つ可能性を信じることです。子どもは、大人が思っている以上の能力を持っています。大人が子どもを信頼して任せれば、子どもは驚くほどさまざまなことができます。ただ、大人が子どもを「子ども扱い」して、「どうせこの子にはできないだろう」と思い込んでやらせないからできないだけなのかもしれません。子どもに任せると失敗しそうなときでも、子ども自身や他の人に大きな危険がない限りは任せるのがいいです。もし成功すれば、大きな困難を自力で乗り越えたことから、子どもは自信を得るでしょうし、もし失敗すれば子どもは、その体験から貴重な教訓を得るでしょう。今後は同じ失敗はしないと決心もし、そのための方法を工夫もするでしょう。いずれの場合も、子どもは勇気づけられます。

(津山工業高校スクールカウンセラー：大森 浩)

